

一宮町 世界有数のサーフタウンへ邁進

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催まで1年を切った。千葉県内で実施される競技は、サーフィンやフェンシングなど8種目で、東京に次ぐ2番目に多い競技数となっている。

特にサーフンは今回からオリンピック種目となり世界中から注目を集めている。開催地の一宮町は「サーフィンと生きる町」を前面に押し出し、サーフタウンとして様々な取り組みを始めている。

移住・定住の施策では、東京駅から直通の特急で1時間、快速で85分と通勤圏内でもあり、サーフンを趣味とする夫婦が家族で移住するケースが増え人口増となっており、過疎化が進む外房地域では異例の状況だ。当然のように子供たちもサーフンを楽しんでおり「好きなスポーツはサーフィン」と答える子供たちも多く、趣味のスポーツから身近なスポーツへ若年層から浸透してきている。また外国からの移住者が増加しているのも特徴的だ。

インバウンド施策では、無料Wi-Fi整備はもちろん、多言語対応の観光ガイドブック制作など訪日外国人のニーズに応える取り組みには力が入る。

一方で課題も残っており、一宮町には大規模宿泊施設が少なく、近隣市町と連携した外国人団体客の取り込みや、地元事業所の多言語化・キャッシュレス化への対応など、外国人インバウンド対策が急務となっている。しかしこの課題をクリアすることで、オリンピック・パラリンピック以降も外国人観光客が「安心して訪れることの出来る町」となり、世界でも有数なサーフタウンとなることだろう。

地域の特徴を活かしオリンピック(サーフィン)を契機に行政と住民が一体となり町を挙げて邁進することで、町の人口増と共にインバウンドも増加し経済が活性化する。一宮町は未来へオリンピックレガシーを継承し、地方都市の新しいかたちを作り上げていく。

千葉日報社 東京支社長代理兼営業統括・新規事業担当部長 菊池幸陽



一宮町の釣ヶ崎海岸は世界有数のサーフポイント。これまでに世界トップレベルのプロが集う国際大会も数多く開催され、2020年東京オリンピックのサーフィン競技の会場予定地にも選ばれた。